

**お互いの母文化を知り、大切にしたい**

安中市立原市小学校 教諭 (JLT) 田中 友子

1 実践のねらい

普段、それぞれの在籍学級で学習していて、学級に馴染んでいる外国人児童たちが母国の学校や名物について紹介する機会を設け、周りの友達が外国人児童たちの母国の文化を身近に感じ、交流するきっかけをつくることにより、多様な見方、考え方を受け入れようとする寛容な態度の育成を図る。また母文化について調べたりまとめたりすることを通して、母国のことを誇りに思い、大切にしようという、外国人児童の育成を図る。

2 実践の概要

- (1) 母国の学校の日常(昼食、教科、掃除、登下校等)について調べ、模造紙にまとめて発表(掲示)することを知る。  
日本生まれのため分からない部分は、保護者に聞いたり、インターネットで調べたりする。
- (2) 紹介したい名物の写真を、タブレット端末を活用して探し、印刷する。
- (3) 調べたことを模造紙にまとめる。
- (4) 紹介する国は、外国人児童のそれぞれの母国とし、日本、ALTの母国についてもまとめる。
- (5) 校舎に掲示し、多くの児童や職員に見てもらおう。
- (6) 周りの児童の感想を聞いたり、自分の感想をまとめたりして、振り返りをする。

3 まとめた模造紙



4 成果と課題

今まで特に外国人児童の母国についてアピールすることがなく、今回、多文化共生教育に係る実践の機会を得て、それぞれの母国の学校や名物について調べ、発表することができた。日本生まれ、または日本育ちの児童が多いので、改めて母国のことを知ることは、本人にとってもよい経験になった。「この写真を貼りたい」と熱望したり、「このパンが有名」と教えてくれたり、楽しく取り組めた。また、学校の友達も、各国の学校の違いや名物の写真、サッカーブラジル代表の写真など、興味をもって見ていた。遠い国だが身近に感じるよききっかけとなり、お互いの文化を知り、尊重するための一助となった。

また、今年度は校内研修の一環で、JLT研修やこれまでの経験から得た外国人児童生徒に関する知識や情報等を先生方に伝達することができた。忙しい中、先生方が多文化共生教育について考える機会となったのではないと思う。これからもお互いの文化を知り、尊重し合えるような活動を継続していけるとよいと思う。